

# 蝸牛考から見る方言の消失

永澤蒼弥 23B41047

東京工業大学生命理工学院

## 1. はじめに

インターネットが普及したことにより、情報はかなりのスピードで伝達することになった。柳田国生の「蝸牛考」では文化の中心部から辺境の地帯になるほど古い語が残り、方言と化していることが指摘されたが、情報が高速化した現在ではどうだろうか。よって、リサーチクエスチョンを「インターネットにより地域特有の方言が少なくなった」とし、これを検証していくこととする。

## 2. 方法

実験方法として、昔の地域特有の言い方と現代の言い方が違っているかを確認するために、カタツムリとテントウムシの呼び方と回答者の地域をアンケートする。その後、「方言学入門」に記載されている2002年のデータを用いて、実際に2002年と現在とで呼び方が違っているかどうかを集計し、リサーチクエスチョンの妥当性を評価する。

## 3. 結果

集計人数:23人

表1にて今回の実験で得られた地域ごとのカタツムリとテントウムシの呼び方が記載されている。

表1において最も注目してほしい点がカタツムリではカタツムリ以外の呼び方をしているのが二人、テントウムシでは三人だったことであり、熊本県の一人を除いてその呼び方をしていたのがすべて首都圏の人だったことが最も印象的だろう。

また、ナナホシテントウという呼び名は広く分布しているため、実質的には方言といえる呼び方はもったいないだろう。

表1: 出身地とそれぞれの呼び方

出身地(都道府県)	カタツムリの呼び方	人数	テントウムシの呼び方	人数
東京都	カタツムリ	6	テントウムシ	6
	ユーハドラ	1	コッチネリデー	1
神奈川県	カタツムリ	6	テントウムシ	6
千葉県	カタツムリ	4	テントウムシ	4
	デンデンムシ	1	ナナホシテントウ	1
埼玉県	カタツムリ	1	テントウムシ	1
静岡県	カタツムリ	1	テントウムシ	1
和歌山県	カタツムリ	1	テントウムシ	1
岡山県	カタツムリ	1	テントウムシ	1
熊本県	カタツムリ	1	ナナホシテントウ	1

## 4. 考察

方言学入門の情報を整理すると、東京都や神奈川県はカタツムリという呼び名が一般的であり、西部ではそれ以外の呼び方も様々な種類が使われていることが分かる。その他の今回のアンケートに含まれていた県では、一部地域でのみカタツムリが使われていた。また、千葉県では一部地域でデンデンムシと呼ばれていることが分かった。また、ユーハドラやコッチネリデーなどは日本に昔からはなく、西洋由来の言葉であることが知られている。

この情報をもとに結果を考えると、ほぼすべての人がカタツムリやデンデンムシという言葉を使っているので、地域によってばらばらな呼び方は消えかかっているといっても過言ではないと思われる。また、ユーハドラは方言学入門にも日本の方言地図にも記載がなく新しく出てきた呼び名であるため、インターネットなどにより普及した呼び方であると考えれば、リサーチクエスチョンの「インターネットにより地域特有の方言が少なくなった」というのは正しいと思われる。

また、柳田国生の「蝸牛考」の方言圏論の中では辺境地帯ほど昔の語が残るとされていて、文化の中心にいる都市から新しい言葉が広まっていってとされていた。結果から、東京が文化の中心と化したことで、京都のマイマイという呼び方ではなく東京の古いカタツムリという言葉が広く使われることになったので、文化が大きく変わるような出来事においては、新しい呼び方が廃れ古い語が改めて使われることになる可能性があるということがわかった。

## 5. おわりに

今回の調査では「インターネットにより地域特有の方言が少なくなった」という問題を提唱した上で、インターネットが普及する前後の2002年と2024年現在のカタツムリとテントウムシの呼び名を調査した。その結果、ほとんどが東京で使われている呼び方に変化しており、新しい呼び方も普及していることから、「インターネットにより地域特有の方言が少なくなった」というのは当てはまっていると結論付けられた。

文献:

木部 暢子他作(2013) 方言学入門

三省堂

徳川 宗賢作 (1979) 日本の方言地図

中公新書